

写真のリサイズの手順と設定

一つの事例として、「リサイズ超簡単！Pro」の活用法で説明します。

【ステップ 1】－変換元ファイル ①

元の写真データが保存されているフォルダーからファイルを選択する。

※一度に複数のデータを選択・変換することが出来る。

【ステップ 2】－保存先 ②

○変換されたデータを区別するためにデータ名の末尾に付加する文字を設定する。

例では「_R」を設定、

変更前「IMGP2014.JPG」とすると変更後「IMGP2014_R.JPG」となります。

○変換されたデータの保存場所を選択する。

【オプション】 ③

「拡張子の文字種を継承」を選ぶ

上の例題の拡張子「.JPG」が継承設定される。

【ステップ 3】－サイズ ④推奨値

撮影するカメラにより、データの縦横比が微妙に異なることがあるため、

●縦サイズ優先 「500」（縦サイズを 500 ピクセルで横サイズは元データの比例値）

※○横サイズ優先の場合は「650」（横サイズを 650 ピクセルで縦サイズは元データの比例値）

※変換作業は、横形式データと縦形式データと別作業となる。

【ステップ 4】－補間方法 ⑤

推奨設定の「高精度：バイキュービック法」を選択する。

【ステップ 5】－フォーマット ⑦

JPG 保存品質>80

Exif 情報の継承・・・を選択する（重要）

上記の設定が終わったら、「変換開始」ボタンをクリックすると変換が始まる。

変換が終了したら、「完了」のボタンが表示されるのでこれをクリックして変換作業が完結する。

Exif 情報閲覧・編集ソフトとは（Exchangeable image file format）

デジカメ（デジタルカメラ）で撮影した写真には、通常 Exif（イグジフ）情報と言う付加情報がついています。撮影したカメラのメーカー、機種、撮影日時、画像方向、ISO 感度、光源、フラッシュ、画像圧縮率、位置情報など様々な情報が含まれています。

この情報は上手に利用すればとても便利なのですが、悪用される危険性があります。例えば、問題となるのが個人情報漏えい問題。自宅で撮影した写真をブログ等に何気なくアップした場合に、位置情報が含まれていると自宅が特定されてしまう恐れがあります。

また、Exif 情報にはサムネイル画像も含まれており、人の顔や名前等をモザイクで消す加工をしたとしても、Exif 情報が残っていれば、サムネイル画像から顔や名前を特定されてしまう恐れもあります。

Exif 情報は便利な情報ですが、使い方によっては意図していない情報を世間に公開する形になる場合があるので、一般公開する場合は Exif 情報を編集したり、削除して対応させておくことが大事になってきます。